

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2014～2016

課題番号：26257003

研究課題名(和文) アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学的研究

研究課題名(英文) Afro-Eurasian Inner Dryland Civilizations and its Historico Ecology  
Anthriopology

研究代表者

嶋田 義仁 (SHIMADA, Yoshihito)

中部大学・中部高等学術研究所・客員教授

研究者番号：20170954

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,800,000円

研究成果の概要(和文)：牧畜パワーを人類文明推進の原動力だとみる観点から、牧畜文化に支えられたアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学研究を進めた。近代以前の主要エネルギーであった牧畜パワーは、移動・運搬手段として長距離交易(シルク・ロード、サハラ交易など)とともに都市文化形成を可能にし、政治・軍事手段としては巨大帝国の形成に寄与した。オアシスや河川による灌漑文化はこの乾燥地文明の網の目を構成した。世界宗教発展もこれに対応した。しかし近代に到来した西洋中心の植民地主義が海洋中心の新世界秩序を構築すると、内陸乾燥地文明はその勢力を失った。その衰亡の過程とともに、乾燥地における文明展開を様々な角度から解明した。

研究成果の概要(英文)：Pastoral power, most important one before the modern times, was main element for the formation of human civilization. We have thus analyzed Afro-Eurasian Inner Dryland Civilizations. It has contributed to the formation of Afro-Eurasian trade networks(Silk Road, Sahara trade) and city cultures with its transporting power and to that of Great Empires with its politico military power. Thus Afro-Eurasian continental civilization was created. The Irrigation cultures consist of big hydrologists and numerous oasis made mesh of a net of trades. The development of world religions (Buddhism, Christianity and Islam) corresponded to this cosmopolitant civilization. We have also analyzed their decline caused from the 16th century with European modern colonialism replacing this world system by another essentially oceanic one. The Modern World-System has not conquered the world. Russian and Chinese Eurasian continental power and Middle East and Saharan Islamic power are yet against.

研究分野：宗教人類学、歴史生態人類学

 キーワード：アフロ・ユーラシア内陸乾燥地 牧畜パワー 人類文明史 移動・運搬手段 政治・軍事手段 サハラ  
 ・シルクロード交易 灌漑文化 西洋海洋文明

## 1. 研究開始当初の背景

本事業に先行する7年の研究期間において叢書14巻,研究論集4巻を発刊した。分担者それぞれの著書・論文も蓄積された。国際的共同研究もすすんだ。アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究を,新たな研究分野として主張しうる基礎はととのった。そのうえで,必要なのは体系化である。

## 2. 研究の目的

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学的研究である。

対象地域は現在,貧困と民族・宗教紛争地域となっているが,歴史的には,人類文明形成の中核地域だった。理由は,乾燥地域には牧畜文化が存在し,牧畜パワーは,近代以前の人類が利用できた最重要エネルギーであったからだ。

とりわけ大型家畜が有する移動・運搬能力と,軍事政治能力は,地域と民族を超えた長距離交易経済:都市文化と巨大帝国形成の原動力となった。アフロ・ユーラシア大陸中央の内陸乾燥地域には,交易経済と都市文化が栄え,モンゴルやトルコなどの巨大帝国が形成された。のみならず,仏教,イスラーム,キリスト教などの世界宗教もかかるグローバルな歴史状況に対応して形成されたと考えられる。

しかし近代には,西洋の世界進出により,海洋中心の世界秩序が形成された。それは,内陸乾燥地文明にかわるあらたな海洋中心世界システムの形成であった。これにともない,内陸乾燥地文明の衰微と破壊がすすんだ。かかる観点から,人類文明史の再考察が必要にもなる。

## 3. 研究の方法

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の体系化をめざす。特に次の問題に注目する。

1) 牧畜5類型の体系化: 北方草原型(ウ

マ文化卓越), 熱帯砂漠型(ラクダ文化卓越), 熱帯サヴァンナ型(ウシ文化卓越), 山地オアシス型(ヒツジ・ヤギ文化卓越), 北方寒冷トナカイ型。さらに,ヨーロッパの酪農型,新大陸牧畜型,新大陸リヤマ・アルパカ型,東南アジア水牛・ゾウ型の予備的類型化もこころみる。

2) その際,乳文化,毛文化,肉文化,皮革文化,家畜糞利用,牧草地文化の体系的理解,並びに,牧畜文化と都市文化,農業文化,工芸文化(絨毯,織物,陶磁器,皮工芸,建築),商業文化,芸術文化(音楽,絵画,文学),宗教文化,との複合文化解明も目指す。

3) ウマやウシ,ラクダなど家畜種の地域的伝播,牧畜にともなう工芸文化の多様な発展,牧畜様式の変貌(定着化,農牧複合形成,酪農化)にともなう地域文明の変同の研究も重要である。

4) 人類文明の近代的変容理解にあたっては,以下の問題に留意する必要がある。西洋主導の海洋文明形成にともなうアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明衰亡,資本主義,帝国主義,社会主義という政治経済的近代化にともなう牧畜文化の変容,化石エネルギーの利用増大にともなう家畜文化の変容,乳,肉利用中心の酪農化。

5) 先史時代狩猟採集文化から牧畜文化へに移行プロセスの解明も,人類の文化・文明形成理解の鍵ともなる。

## 4. 研究成果

牧畜パワーは近代以前の最重要エネルギーであり,これに支えられたアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明が人類文明史の中心にあった。その歴史生態人類学的研究を試みた。

成果はまずアフロ・ユーラシア文明研究叢書3編。これでこの叢書は17冊になった。今村編著『カザフ人の牧畜と文化』包海岩『社会主義体制下のける中国内モンゴル牧

畜文化の近代化』 Hamadi Ah.El-Hadj "La vie d'un oasien du Tidikelt ouest dans l'extreme sud algerien"(アルジェリア最南部西チケルトのオアシスの生活)。

はフタコブとヒトコブが共存し交雑するラクダ文化の現代動態分析のカザフ研究者との国際共同研究。は社会主義中国時代の近代内モンゴル牧畜文化の変動を、この時代の内モンゴルの家畜の全統計を分析し、その変動を遊牧から酪農化としてとらえた画期的な研究。はサハラ・オアシス文化の現代史。著者の祖父は黒アフリカでとらえられてオアシスに連れてこられた旧奴隷であったが、著者はオアシスの小中学校校長となるとともに、サハラのオアシス文化を小堀巖とともに研究。その自伝であり、サハラ・オアシスの旧奴隷の記録としてこれも世界的な価値がある。

研究報告『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』5では、嶋田が「地球人類の人類学をめざして」が本研究の目標を地球人類学の構築として論じた。坂田隆「日本陸軍によるフタコブラクダの利用」はラクダの軍事利用の詳細を解明。ラクダの移動運搬能力などが明らかにされた。中川原育子「石窟壁画の材料・技法の観点からみた東西交流」は、嶋田義仁・今村薫編著『岩絵文化と人類文明の形成』の岩絵文化研究と連動するユーラシア乾燥地域美術史研究。嶋田はホモ・サピエンスの先行人類(ネアンデルタール人やホモ・エレクトスなど)との違いとして、ホモ・サピエンスの美術などの芸術能力に注目している。岩絵にえがかれるの圧倒的に家畜化される以前の野生動物が多い。

バヤリタ「オイラトモンゴル人の野生植物の食用利用」は、乾燥地域の植物利用研究。乾燥地域は牧畜が中心であるが、草原植物の利用も盛んにおこなわれている。その詳細の解明。

図書出版においては、大野旭の旺盛なモン

ゴル研究(『逆転の大中国史』文藝春秋、『モンゴル人の民族自決と「対日協力」集広舎)がひきつづきあった。『逆転の大中国史』は中国史をユーラシアの乾燥地文明の観点から論じた研究。平田昌弘も乳製品食文化論を『デーリマンのご馳走』デーリマン社として出版。石山俊はアフリカ内陸国チャド研究(博士論文)を『サーヘル環境人類学』昭和堂として出版。植民地主義によってアフリカ内陸に孤立させられたサーヘル国の政治・経済の困窮化を分析。

論文では、嶋田が『大法輪』で「アフリカ文明の原像を求めて」を10回連載。今村はラクダ文化について、平田は乳文化、中川原はユーラシア美術について、論考を重ねた。また嶋田は、「アフロ・ユーラシア文明展」を中部大学民族資料博物館にて10月 3月開催した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計35件)

Imamura, K. & Hirota, C., Узоры и орнаменты казахского народа в сравнении со стилем палеоазиатских народов (The pattern and ornaments of Kazakh people; comparing with Paleo-Asiatic peoples), *Journal of Nagoya Gakuin University, Language and Culture* 28(2), 査読無, (In Press), 2017

② Masahiro Hirata, Taija Nan Ryunosuke Ogawa, Shiho Ebihara, Yusuke Bessho, Izumi Hoshi. Milk processing system of Amdo Tibetan pastoralists and its transition in Qinghai Province, China, *Journal of Arid Land Studies* (In press), 査読有, 2017

③ 平田昌弘, Mihaela Persu, Dan Balteanu, 山田勇 「ルーマニア・南カルパチア山脈における乳加工体系」*Milk Science* (印刷中) 査読有, 2017年

嶋田義仁 「牧畜民の世界」『大法輪』, 査読無, 52-58, 2017年

嶋田義仁 「アフリカの風土と歴史」『大法輪』 2, 44-51, 査読無, 2017年

嶋田義仁 「黒アフリカ・イスラーム文明」『大法輪』 3, 49-55, 査読無, 2017年

嶋田義仁 「イスラームと仏教」『大法輪』 4, 査読無, 41 - 47, 2017年

嶋田義仁 「地球人類の人類学をめざして」

『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究』  
5 : 1-34, 査読無, 2017 年

坂田隆「日本陸軍によるフタコブラクダの  
利用」『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明  
研究』5 : 37-94, 査読無, 2017 年

中川原育子「石窟壁画の材料・技法の観点  
からみた東西交流」『アフロ・ユーラシア内  
陸乾燥地文明研究』5 : 95-110, 査読無, 2017  
年

Masahiro Hirata, Isamu Yamada, Kenji Uchida  
and Hidemasa Motoshima, The characteristics of  
milk processing system in Kyrgyz Republic and  
its historical development, *Milk Science*, 65(1):  
11-23. 査読有, 2017 年

嶋田義仁「アフリカ宗教の地獄」『大法輪』  
7, 139-143, 査読無, 2016 年

嶋田義仁「虹の国, 南アフリカ共和国をた  
ずねて」『大法輪』9, 45-51, 査読無, 2016 年

嶋田義仁「ブッシュマンの岩絵文化」『大  
法輪』10, 46-52, 査読無, 2016 年

嶋田義仁「7 百年前ヒトはサハラで生まれ  
た」『大法輪』11, 40-46, 査読無, 2016 年

嶋田義仁「サバンナに砂漠化はあるか」『大  
法輪』12, 48-54, 査読無, 2016 年

SAKATA, Takashi, 2016 年 “Milk and meat  
production from dromedary and bactrian camels  
in the world, Africa, Asia, Europe and their  
sub-regions from 1961 to 2013 ” 『石巻専修大学  
研究紀要』27: 129-140, 査読無

Imamura, K., R. Salmurzaul, M.K. Iklasov, A.  
Baibayssov, K. Matsui, S. T. Nurtazin The  
distribution of the two domestic camel species in  
Kazakhstan caused by the demand of industrial  
stockbreeding, *Journal of Arid Land Studies* 26-4,  
査読有, 2016 年

大野旭「日本は文化大革命五〇周年をどう  
論じたか」『中央公論』12 月号, 158-168, 査読  
無, 2016 年

大野旭「烏蘭夫與毛沢東的相克 大量屠殺  
蒙古人の理論背景」宋永毅編『文革五十年  
毛沢東遺産と当代中国』(上), 230-254, 査読  
無, 香港明鏡出版社, 2016 年

①大野旭「少数民族の中国文化大革命」一般  
財団法人・霞山会『東亜』No.588, 6 月号, 28-36,  
査読無, 2016 年

②大野旭「内モンゴルの中国文化大革命研究  
の現代史的意義」岩波書店『思想』  
no.1101, 72-90, 査読無, 2016 年

③中川原育子「クチャ地域のヤクシャ系神像  
の諸相」『23 回ヘルズム～イスラム考古学研究』vol.  
23, 141-159. 査読有, 2016 年

④中川原育子「キジル第 224 窟(第 3 区マヤ  
窟)主室壁画復元の試み」『シルクロード・  
キジル石窟壁画の材料・技法の研究』50-65,  
査読無, 2016 年

⑤平田昌弘, 辻貴志, 内田健治, 元島英雅, 木  
村純子「非乳文化圏フィリピンへの乳文化  
の浸透・変遷形態 セブ州マクタン島コルド  
ヴァ町の漁民世帯の事例から」*Milk  
Science* 64(3): 191-199. 査読有, 2016 年

⑥古澤礼太「トウモロコシの発酵主食「コミ  
(ケンケ)」から考えるガーナ共和国ガ民族  
の食文化」『沙漠研究』126(2) : 73 - 79. 査読  
有, 2016 年

⑦児玉香菜子・サランゲレル「エジネーのオ  
ーラルヒストリー(4)アジアスレン」『千  
葉大学ユーラシア言語文化論集』18:101-119,  
査読無, 2016 年.

〔学会発表〕(計 31 件)

①大野旭「ユーラシアから見たアジア的価  
値」静岡県主催『インド・日本・韓国・中国  
から見たアジア的価値』静岡県グランシッ  
プ, 静岡市, 静岡県, 2017 年 2 月 17 日

②大野旭「ユーラシア文明から見た中国」京  
都南口タリークラブ, ホテルグランヴィア  
京都. 京都市, 京都府, 2017 年 2 月 16 日

③大野旭「ユーラシアの視点から見た中国  
史」日垂協会第 244 回例会, 於: 大阪市立総合  
学習センター, 大阪市, 大阪府, 2017 年 2 月 15  
日

石山俊・三村豊「家族で語る I ターン:  
綾部の半農半蕎麦, 安喰さん」公開シンプ  
ジウム「食と暮らしのものがり - テロワール  
を活かす - 」, 2017 年 1 月 21 日, 和歌山大学  
松下会館, 和歌山市, 和歌山県

大野旭「ユーラシアから見た中国」経営文  
化フォーラム, 於: 東京学士会館, 千代田区,  
東京都, 2016 年 12 月 15 日

中川原育子「インド・中央アジアの精霊信  
仰 仏教美術に与えた影響を中心に」『ア  
フロ・ユーラシア内陸乾燥地文明と新世界シ  
ステム論』中部大学リサーチセンター, 春日  
井市, 愛知県, 2016 年 12 月 11 日

大野旭「ユーラシア文明から見た中国」『ア  
フロ・ユーラシア内陸乾燥地文明と新世界シ  
ステム論』(アフロ・ユーラシア内陸乾燥地  
文明の歴史生態人類学的研究第六回シンプ  
ジウム, 嶋田義仁代表), 於: 中部大学, 春日井  
市, 愛知県, 2016 年 12 月 10 日

坂田隆「軍用家畜としてラクダ 参謀本部  
編「支那産駱駝ノ研究」の紹介」アフロ・ユ  
ーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学  
的研究第 6 回シンポジウム, 中部大学, 春日井  
市, 愛知県, 2016 年 12 月 10 日

今村薫「カザフスタンにおけるラクダ(家  
畜 2 種とその雑種)の分布とその要因」ア  
フロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態学  
的研究第 6 回シンポジウム, 中部大学, 春日井  
市, 愛知県, 2016 年 12 月 10 日

児玉香菜子「乾燥地研究の軌跡 赤木祥彦  
福岡教育大学名誉教授収集資料から」公開  
シンポジウム「アフロ・ユーラシア内陸乾燥  
地文明の歴史動態」2016 年 12 月 10 日, 中  
部大学リサーチセンター, 春日井市, 愛知県

大野旭「逆転の大中国史 歴史に由来する  
民族問題と歴史に復讐される中国」同友会ク  
ラブ招待講, 東京都同友会クラブ, 千代田区,  
東京都, 2016 年 12 月 2 日

坂田隆「ヤギの増体重に与える飼料添加メ

スキーと英の影響」中東と南アジアの外来移入種メスキート問題 砂漠化対処から水・エネルギー・食料の資源ネクスヘ , 秋田大学, 秋田市, 秋田県, 2016年, 11月19日

古澤礼太「西アフリカ・ガーナ共和国の新年祭にみる伝統儀礼と現代的イベントの融合～首都アクラのホモウォ祭りの事例から～」イベント学会第19回研究大会, 2016年11月13日, 上智大学, 千代田区, 東京都

中村亮「アフリカ地域漁業の変化: タンザニア南部キルワ島に新登場した「鮮魚商売」の影響」地域漁業学会第58回大会, 2016年10月30日, 別府豊泉荘, 別府市, 大分県

今村薫, S. T. Nurtazin, R. Salmurzauli, M. K. Iklasov and A. Baibagysov 「カザフスタンにおける家畜ラクダの分布と牧畜技術の変遷」日本沙漠学会秋季シンポジウム, 名古屋学院大学, 名古屋市, 愛知県, 2016年10月15日

今村薫「人はなぜハイブリッドを作出するのか カザフスタンにおけるラクダ飼育の現状」第70回日本人類学会大会, 新潟医療福祉大学, 新潟市, 新潟県, 2016年10月9日

中村亮「ダウ船から分かること: インド洋西海域の船の比較研究のこころみ」民博共同研究会: 物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究(縄田浩志), 国立民族学博物館, 吹田市, 大阪府, 2016年10月8日

古澤礼太「西アフリカ・ギニア湾岸の植民地都市アクラにおけるガ漁民新年祭」日本宗教学会第75回学術大会, 2016年9月11日, 早稲田大学, 新宿区, 東京都

Akira Ohno, 'Mongolian Genocide During the Chinese Cultural revolution' Ustainab International Association for Mongol Studies, Ulaanbaatar, Mongol, 2016年8月16日

中川原育子「クチャ地域の鬼神表現の系譜 禿頭凶像を中心に」第23回ヘルズ・ム・イズム考古学研究会, 金沢大学, 金沢市, 石川県, 2016年7月2日

①Furusawa, Reita 'Promoting the Bioregional ESD Model in UNESCO's Global Action Program(GAP) for SDGs', International Conference on Climate Change: Biodiversity and Ecosystem Services for the Sustainable Development Goals: Policy and Practice, 2016/6/28, Sirindhorn International Environmental Park in Cha-am, Phetchaburi Province, Thailand.

②Akira Ohno, 「烏蘭夫與毛沢東的相克」, 'China and Mao's Legacy: Commemoration of the 50th Anniversary of the Cultural Revolution', Conference at the University of California, Riverside, USA, 2016年6月26日

③古澤礼太「植民地起源都市アクラのトウモロコシ祭りガーナ共和国ガ民族のホモウォ祭りに見るトウモロコシの共食を通じた地域社会の紐帯維持」日本アフリカ学会第53回学術大会, 2016年6月5日, 日本大学生物資源科学部, 藤沢市, 神奈川県

④石山俊 「サハラ・オアシスの水問題と現

代的变化 アルジェリア・サハラ, イン・ベルベルの事例」日本アフリカ学会第53回学術大会, 2016年6月4日, 日本大学藤沢キャンパス, 藤沢市, 神奈川県。

⑤今村薫「種を越えたハイブリッドを作出しつづける人たち カザフスタンにおけるラクダ飼育の現状」第50回日本文化人類学会大会, 南山大学, 名古屋市, 愛知県, 2016年5月28日

⑥石山俊「フランスによるチャドの征服と植民地化」日本沙漠学会第27回学術大会, 2016年5月28日, 鳥取大学乾燥地研究センター鳥取市, 鳥取県(本人発表)

⑦古澤礼太「植民地都市に生きるガ漁民-ガーナの首都アクラ」, 中部大学民俗資料博物館『アフリカ資料(松浦晃一郎コレクション)公開記念シンポジウム』2016年5月10日, 中部大学, 春日井市, 愛知県

⑧嶋田義仁「黒アフリカ・イスラーム文明」中部大学民俗資料博物館『アフリカ資料(松浦晃一郎コレクション)公開記念シンポジウム』2016年5月10日, 中部大学, 春日井市, 愛知県

〔図書〕(計12件)

①中村亮(近刊)「隠された文化遺産: タンザニア南部キルワ島の世界遺産をめぐる観光と信仰」飯田卓編『文化遺産の人類学』臨川書店, 2017年, 印刷中

②石山俊『サーヘル環境人類学』昭和堂, 232頁, 2017年

③嶋田義仁編著『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』5, 中部大学, 271頁, 2017年

今村薫編著『カザフ人の牧畜と文化』アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明叢書15, 中部大学, 152頁, 2017年

包海岩『社会主義体制下のける中国内モンゴル牧畜文化の近代化 1949-2009』アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明叢書16, 中部大学, 115頁, 2017年

Hamadi Ah.El-Hadj "La vie d'un oasisien du tidikelt ouest dans l'extreme sud algerien" アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明叢書17, 中部大学, 148p., 2017年

今村薫, 「サン(ブッシュマン)の世界像」秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三谷明正・桃木至朗編『「世界史」の世界史』(MINERVA 世界史叢書総論)ミネルヴァ書房, pp.226-244, 2016年

平田昌弘『デーリイマンのご馳走』デーリイマン社, 116頁, 2016年

大野旭『逆転の大中国史 ユーラシアの視点から』文藝春秋, 309頁, 2016年

大野旭『モンゴル人の民族自決と「対日協力」 いまなお続く中国文化大革命』, 集広舎, 385頁, 2016年

大野旭(編著)『フロンティアと国際社会の中国文化大革命 いまなお中国と国際社会を呪縛する50年前の歴史』, 301頁, 集広舎, 2016年

石山俊 「サハラ・オアシスのナツメヤシ  
灌漑農業 - 統合的手法からの農業史理解」石  
川博樹, 小松かおり, 藤本武編『食と農のア  
フリカ史』昭和堂, pp.115-134, 2016年

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

嶋田 義仁 (SHIMADA, Yoshihito)  
中部大学・中部高等学術研究所・客員教授  
研究者番号: 20170954

### (2) 研究分担者

坂田 隆 (SAKATA, Takashi)  
石巻専修大学・理工学部・教授  
研究者番号: 00215633

今村 薫 (IMAMURA, Kaoru)  
名古屋学院大学・現代社会学部・教授  
研究者番号: 40288444

ボルジギン・ブレンサイン (BORJIGIN,  
Burensain)  
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授  
研究者番号: 00433235

縄田 浩志 (NAWATA, Hiroshi)  
秋田大学・国際資源学部・教授  
研究者番号: 30397848

大野 旭 (OHNO, Akira)  
静岡大学・人文社会科学部・教授  
研究者番号: 40278651

平田 昌弘 (HIRATA, Masahiro)  
帯広畜産大学・畜産学部・准教授  
研究者番号: 30396337

Oussouby Sacko (OUSSOUBY, Sacko)  
京都精華大学・人文学部・教授  
研究者番号: 70340510

石山 俊 (ISHIYAMA, Shun)  
総合地球環境学研究所・研究部・プロジェク  
ト研究員  
研究者番号: 10508865

児玉 香菜子 (KODAMA, Kanako)  
千葉大学・文学部・准教授  
研究者番号: ,20465933

中村 亮 (NAKAMURA, Ryo)  
総合地球環境学研究所・研究部・外来研究員  
研究者番号: 40508868

古澤 礼太 (FURUSAWA, Reita)  
中部大学・中部高等研究所・准教授  
研究者番号: 70454379

中川原 育子 (NAKAGAWARA, Ikuko)  
名古屋大学・文学研究科・助教  
研究者番号: 10262825

### (4) 研究協力者

包海 岩 (PAO, Haiin)  
内蒙古科技大学・文法学院・講師

松平 修二 (MATSUHIRA, Syuji)  
日本学術振興会特別研究員

Hamadi Ah.El-Hadj (Hamadi, Ah.El-Hadj)  
元アウレフ中学校校長, アルジェリア